

区連会 資料 3 - 3

区連会 10月説明資料
令和5年10月18日
都市整備局上瀬谷整備推進課

自治会町内会長 各位

都市整備局 上瀬谷整備推進課長

「旧上瀬谷通信施設地区まちづくりニュース第3号」の発行について(依頼)

日頃から市政の推進にご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

「旧上瀬谷通信施設地区」の一部で開催される GREEN×EXPO 2027 の会場計画や、「観光・賑わい地区」のテーマパーク等を核とした複合施設の事業予定者、交通基盤整備などについて、広く区民の皆様にご案内するために、「旧上瀬谷通信施設地区まちづくりニュース第3号」を発行いたしました。

つきましては大変お手数ですが、班回覧の実施が可能な自治会町内会の皆様については、**自治会での班回覧について可能な範囲**でご協力を賜りますようお願いいたします。班回覧での実施が難しい場合は、単位町内会の定例会等を活用した情報共有など周知にご協力を賜りますようお願いいたします。

記

1 依頼事項

「旧上瀬谷通信施設地区まちづくりニュース 第3号」の班回覧

2 送付資料

「旧上瀬谷通信施設地区まちづくりニュース 第3号」 A3 二つ折り

※班回覧に必要な部数を送付いたします。

3 参考

市ウェブサイトでの確認方法

「横浜市 旧上瀬谷通信施設地区 まちづくりニュース」で検索

※ 第1号、第2号もご覧いただけます。



<担当>

都市整備局 上瀬谷整備推進課 村木、永田

TEL:045-671-2061、FAX::045-550-4098

E-mail:tb-kamiseyasuishin@city.yokohama.lg.jp

Q: どのような渋滞対策を行うの？

A: 旧上瀬谷通信施設地区は、東名高速道路や、保土ヶ谷バイパスなどの広域的な幹線道路と隣接しているため、自動車交通の利便性が高い一方で、現在も、交通の集中による渋滞が発生しています。

GREEN×EXPO 2027会場へのアクセスは、周辺4駅(瀬谷駅、三ツ境駅、十日市場駅、南町田グランベリーパーク駅)からのシャトルバス、空港や主要ターミナル駅からの直行バス、貸切バス、自家用車の利用が見込まれます。また、テーマパークを始めとしたその後のまちづくりに向けても、環状4号線や、八王子街道などの道路の拡幅整備や改良等を進めていく予定です。

(詳細は、まちづくりニュース第2号をご覧ください)。

上瀬谷 まちづくりニュース

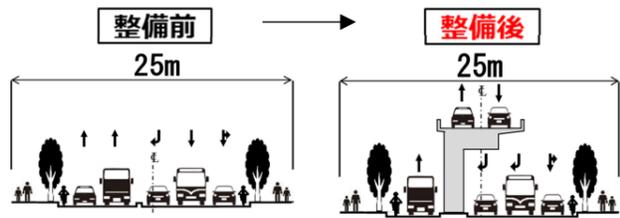
検索



今回、新たに環状4号線と八王子街道が交差する目黒交番前交差点の立体交差化を行うことになりました。

◆目黒交番前交差点の立体化

環状4号線を一部高架化します。



令和6年度工事着工予定

この交差点は、主要渋滞箇所にて特定されており、将来も交通集中が想定されることから、八王子街道や環状4号線の拡幅と併せて、立体交差化を行うことで、円滑な交通アクセスの確保といった効果が期待できます。



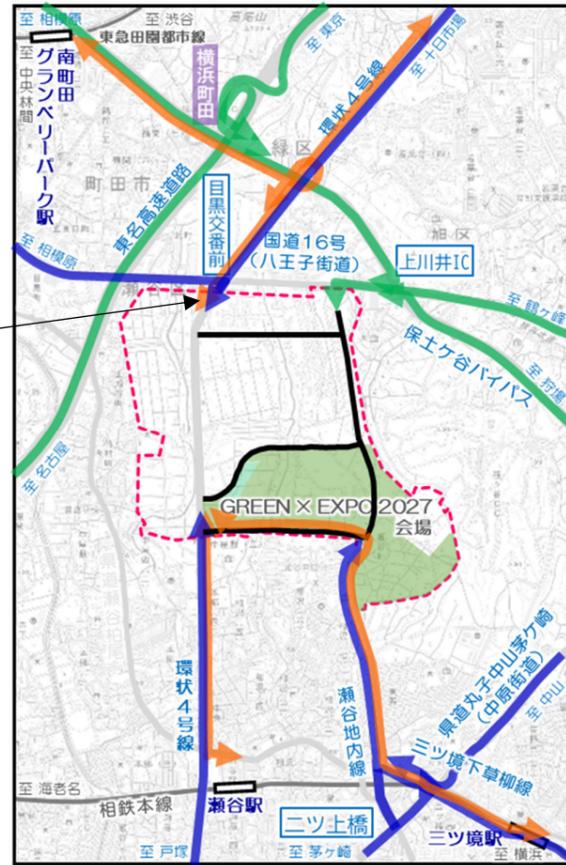
環状4号線(瀬谷区側)からみた目黒交番前交差点の様子

Q: 「新たな交通」と「新たなインターチェンジ」とは？

A: 瀬谷駅を起点とする公共交通機関として、「新たな交通」の導入にむけた検討を進めており、現在は、来街者需要等を踏まえた輸送システムの検討を進めています。また、交通利便性の向上や周辺の交通負荷の低減に向け、東名高速道路と直結する「新たなインターチェンジ」の検討を進めています。

■お問い合わせ先 横浜市都市整備局上瀬谷整備推進課
〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10
電話:045-671-2061 FAX:045-550-4098
E-mail:tb-kamiseyasuishin@city.yokohama.lg.jp

GREEN×EXPO 2027のアクセスルート
 広域からの主なアクセスルート
 近郊からの主なアクセスルート
 シャトルバスの運行ルート



GREEN×EXPO 2027後のまちづくりに向けた交通基盤整備

旧上瀬谷通信施設地区 まちづくりニュース



「GREEN×EXPO 2027」(2027年国際園芸博覧会)

<開催期間>
2027年3月19日~9月26日

「GREEN×EXPO 2027」とは、花や緑とのふれあいだけでなく、地球温暖化などの地球規模の問題に対して自然の力を生かした解決策を世界へ発信していく博覧会です。緩やかな起伏を有した地形や、市民の森へと続く既存樹木などの豊かな自然環境を生かした会場にしていきます。



GREEN×EXPO 2027 会場

※(公社)2027年国際園芸博覧会協会資料を基に作成

3つのゾーン GREEN×EXPO 2027の骨格となる3つのゾーンを設けます。

国際展ゾーン

世界各国や国際的な花き園芸・造園企業による出展。世界の園芸文化、食農文化の多様性に出会う国際色豊かなゾーンです。

シンボルゾーン

GREEN×EXPO 2027のテーマを発信するテーマ館のほか、花き品種、ガーデンデザインなどの多彩なコンペティションが展開される屋内出展施設を設けます。

日本ゾーン

日本政府による庭園及び屋内出展のほか、主催者による園芸文化展示、自治体等による出展が集結。日本の園芸文化の奥行きに触れることができます。

5つのVillage GREEN×EXPO 2027独自の取り組みとなるテーマ共創事業としてGXを実現する5つの「Village」を設けます。主催者と参加者がテーマを共有しながら、「幸せを創る明日の風景」の創出に取り組みます。

Nature-based Design



GXが実現する未来都市の風景を提案します。カーボンニュートラルを中心に、自然の力を社会課題解決に活かす技術(NbS)を世界に発信します。

GX分野 | 暮らし/まちづくり・建築・交通/技術・産業/再生可能エネルギー



食と農が連携し、共存する「さと」の風景を提案します。心身が満たされ、健康であること。その豊かさを実感できるコンテンツを集積します。

GX分野 | 健康・食と農



土地に寄り添いながら多様な生業を生み出してきた日本の叡智を継承。自然と共存しつつ、新たな産業を生み出す未来の田園風景を提案します。

GX分野 | 暮らし/健康・食と農/生態系・自然環境



次代を担う子どもたちが自然と親しみ、楽しみながら学ぶことができるコンテンツを集積、誰もが笑顔になれる風景を提案します。

GX分野 | 暮らし



市民の森と美しい花を背景に、生物多様性や都市と農村の連携をテーマにした学びのプログラムを提供する、新たな里山の風景を提案します。

GX分野 | 暮らし/生態系・自然環境

※2023年9月現在の予定。今後の調整状況により変更になる可能性があります。

「観光・賑わい地区」については、令和5年2月24日から事業者の公募を開始したところ、1者から提案があり、「横浜市旧上瀬谷通信施設地区活用事業審査委員会」の審査を経て、9月14日に、事業予定者を公表しました。事業予定者から提案のあった内容をご紹介します。

【事業予定者】三菱地所株式会社（住所：東京都千代田区大手町一丁目1番1号）

Q:どんな施設ができるの？

A:「観光・賑わい地区」を、①テーマパークゾーン、②駅前ゾーン、③公園隣接ゾーン、④環4西ゾーンの4つのゾーンに分けて、こどもから大人まで様々な世代が楽しめるエリアを整備する予定です。

Q:全て有料なの？無料で入れるところはある？

A:①非日常的な体験ができるテーマパークゾーンは、有料ですが、②駅前ゾーンや、③公園隣接ゾーンは、地域の方々が、日常的に利用できるバラエティ豊かな店舗が出来る予定で、入場は無料です。買い物や、食事ができるエリアもあり、誰もが楽しめるエリアになる予定です。ぜひ、お立ち寄りください。

〔事業予定者の提案概要〕

① テーマパークゾーン

ジャパンコンテンツと最先端のジャパンテクノロジーを活用した次世代型テーマパークを観光・賑わい地区の中心に導入し、ワールドクラスのテーマパークに相応しい規模(敷地面積約51ha)で計画します。いつ来ても新しい感動・興奮体験を来場者の方に提供し、恒常的な賑わいを創出します。



② 駅前ゾーン

入場無料

テーマパークのグッズショップやコンビニ、ドラッグストアのほか、カフェ、レストラン等、市民や地域の方々が、日常的に利用できるバラエティ豊かな店舗を集積させた商業施設を設けることにより、更なる賑わいづくりを行います。



③ 公園隣接ゾーン

入場無料

都市公園との結節点であることや、GREEN×EXPO 2027会場跡地であることに鑑み、「農と食」や「Well-being」など、自然・人・社会が調和する新しいライフスタイルを提案する、自然をコンセプトとした商業施設を導入します。



④ 環4西ゾーン

空港や主要ターミナル駅等からのバス路線を受け止めるバスターミナル等を整備し、広域からのアクセスを強化します。将来開発用地を確保し、テーマパーク開業時は地域の賑わい創出に資する暫定利用を検討します。



Q:テーマパークにすることは、どうやって決まったの？

A: 旧上瀬谷通信施設地区の土地の所有割合は、約250人の地権者の方が約45%、国が約45%、残り約10%を市が所有しているため、これまで、地権者で構成される「まちづくり協議会」や、市民の皆様のご意見を聞きながら、土地利用を検討してきました。横浜市では、広大な土地を活かし、郊外部の新たな活性化拠点として、国内外から交流人口の増加が見込める土地利用を目指していました。また、「まちづくり協議会」では、土地利用の検討を重ねる中でテーマパークを誘致しようということになり意見が一致しました。そのため、「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画」の案の中に、テーマパークを核とした複合的な集客施設の立地を位置づけ、市民意見募集や説明会などの市民の皆様のご意見を踏まえて、令和2年3月に「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画」を策定しました。

Q:自然環境に関する提案はどのようなものだったの？

A: 旧上瀬谷通信施設地区は、横浜市の緑の10大拠点の1つであり、周辺に市民の森や農地が広がるなど、豊かな自然環境に囲まれた地域特性があります。事業予定者からは、そのような「上瀬谷の持つ多様なポテンシャル」を活かすこと、既存環境を継承すること、自然をコンセプトとした商業施設を導入すること、グリーントランスフォーメーション(GX)の実証や脱炭素の取組、再生可能エネルギーの活用など、GREEN×EXPO 2027のレガシーを継承することなどをご提案いただきました。持続可能なまちづくりに向けて、事業予定者や関係機関と連携しながら、具体化に向けて検討を進めていきます。

Q:どんなコンセプトの施設なの？

KAMISEYA PARK (仮称) ～世界に誇るジャパンコンテンツとジャパンテクノロジーを活用した ワールドクラスの次世代型テーマパーク～



継承する価値

GREEN×EXPO 2027のレガシーを継承・実装し自然と持続的に調和するグリーンシティ

新たにつくる価値

ジャパンコンテンツと最先端のジャパンテクノロジーを活用した次世代型テーマパークを中心としたまちづくり

持続的なまちづくりを支える仕組み

未来の最適解を創る最先端GX・DX技術の実装とさらなる発展を目指すスマートシティ